

堆肥を利用した小豆等の高品質安定生産に向けて

府では、「ブランド京野菜等倍増戦略第2次プラン」の一環として、丹波大納言小豆の生産拡大のために、生産コストが低い2年3作体系（小豆－水稲－小麦）の導入を進めています。

このため、農林センターでは、2年3作体系の作物の高品質安定生産に向けて、牛ふん堆肥を用いた土づくりの方法を試験しています。6月3日に小麦を収穫して調べたところ、前々作の小豆栽培のために散布した堆肥は、その後の小麦の生育にも効果が持続することが明らかになりました。

当センターでは、7月以降、さらに小豆の品質（粒の大きさ）や収量を調べ、効果的な堆肥の散布時期や量を明らかにするとともに、関係農業改良普及センター等とのタスクチームにより、堆肥を利用した栽培方法の普及を進めます。



小麦の収穫作業



堆肥なし



小豆前に堆肥散布
(小麦の穂が長くなり、穂数も増加)